

平成 28 年 山形県の自殺の現状について

(1)自殺者数の推移

山形県精神保健福祉センター(H29年11月作成)

山形県の平成 28 年の自殺者数は 220 人で前年に比べ23人の減少であった。平成 18 年の 381 人をピークに減少傾向にある。男性の自殺者数は、年々減少傾向にあるが、女性の自殺者は減少が少ない傾向にある。

また全国の自殺者数は、平成 28 年は 21,017 人で、平成 22 年から 7 年連続で減少している。

(図 1)

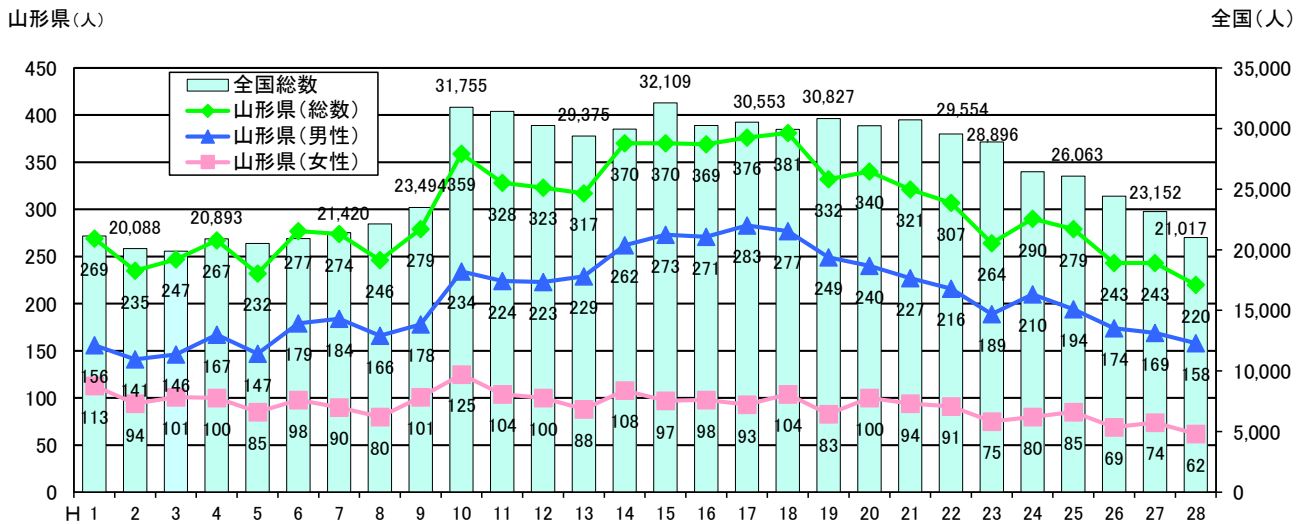


図1 自殺者数の推移(全国、山形県) 厚生労働省人口動態統計

(2)自殺死亡率の推移

山形県の人口 10 万人あたりの自殺者数(以下「自殺死亡率」)は、平成 28 年 19.9 人(全国平均 16.8 人)で全国 7 位だった。自殺死亡率は、前年(21.7 人)と比べ減少し、自殺者数同様平成 18 年のピーク時より徐々に減少傾向にあるが、全国と比べ依然高い状況である。

県では、平成 29 年度に自殺死亡率 20.0 人を目標にしており、今後も自殺死亡率減少に向け引き続き対策を進めていく必要がある。

国は、自殺総合対策大綱(平成 29 年)の中で、平成 38 年までに、平成 27 年(18.5 人)に比べ 30% 以上の減少を目標としている。(図2)

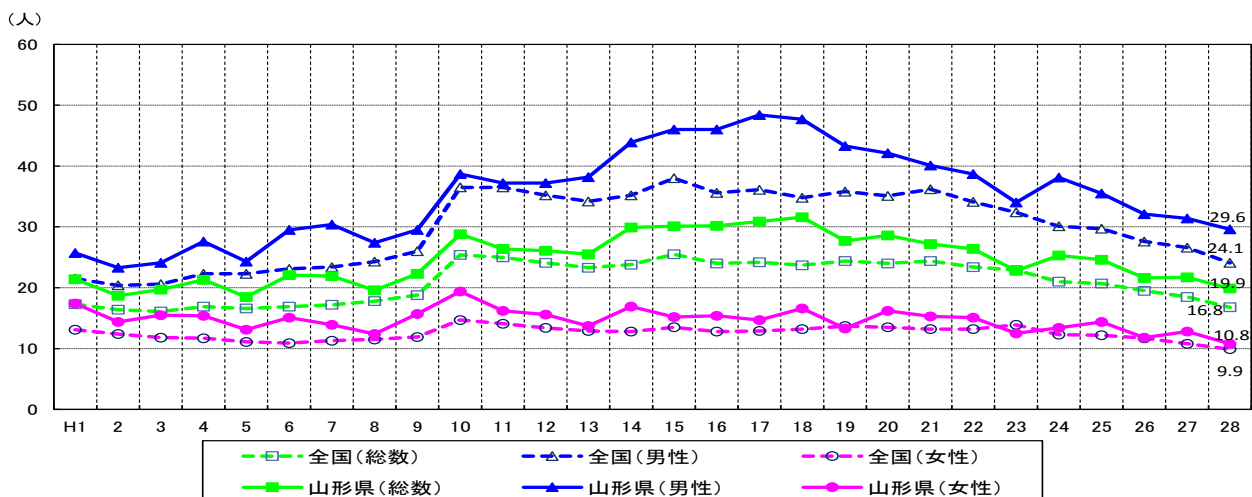


図2 自殺死亡率の推移(全国、山形県) 厚生労働省人口動態統計

(3)年齢階級別の自殺の状況

過去5年間の年齢階級別自殺者数では、60歳代が多い状況で推移している。平成28年は、次いで、50歳代、80歳代が多くなっている。40歳以上の中・高年齢層が全年齢層での上位を占めている。20歳代は4年連続で減少している。(図3)

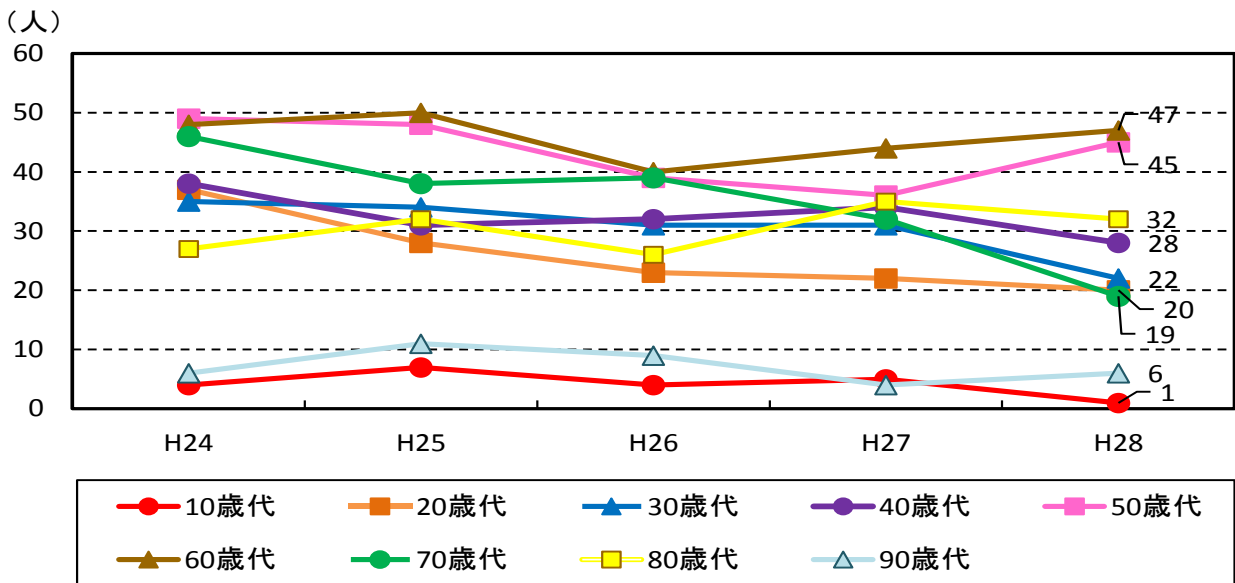


図3 山形県年齢階級別自殺者数の推移 厚生労働省人口動態統計

(4)男女別の自殺の状況

男女別では、男性が158人(71.8%)、女性が62人(28.2%)である。男性の自殺者が全体の約7割を占め、女性の約2.5倍となっており、近年と同様の傾向にある。平成27年と比較すると、男性は、50歳代と80歳代以上で増加、女性は、50歳代、60歳代で増加している。(図4)

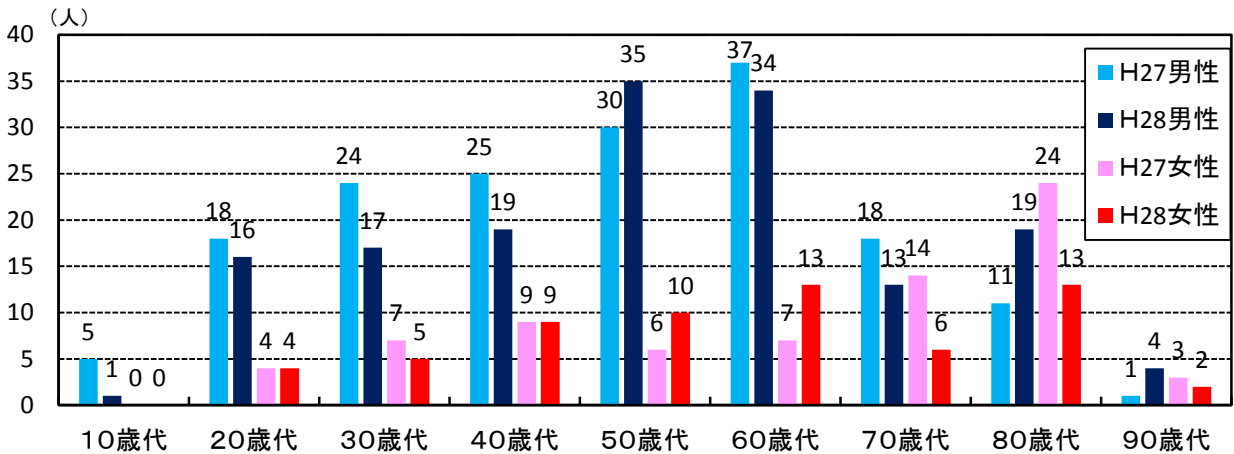


図4 山形県年齢階級別・男女別の自殺者数 厚生労働省人口動態統計

(5)死因別の自殺の状況

山形県の主な死因別構成割合は、第1位悪性新生物から、心疾患、脳血管疾患、老衰、肺炎、不慮の事故、腎不全と続き、自殺は第8位となっている。自殺は、20～30歳代で死因の第1位、10歳代で第2位、40～50歳代では第3位となっている。(表1)

年齢階級	第一位				第二位				第三位			
	原因	死亡数(人)	死亡率	割合(%)	原因	死亡数(人)	死亡率	割合(%)	原因	死亡数(人)	死亡率	割合(%)
10歳～19歳	不慮の事故	4	4.0	57.1	悪性新生物	1	1.0	14.3	悪性新生物	1	1.0	14.3
					脳血管疾患	1	1.0	14.3				
					自殺	1	1.0	14.3				
20歳～29歳	自殺	20	22.9	44.4	悪性新生物	8	9.2	17.8	心疾患	7	8.0	15.6
30歳～39歳	自殺	22	18.2	39.3	悪性新生物	20	16.5	35.7	不慮の事故	6	5.0	10.7
40歳～49歳	悪性新生物	53	38.2	35.6	心疾患	31	22.4	20.8	自殺	28	20.2	18.8
50歳～59歳	悪性新生物	192	135.1	52.5	心疾患	61	42.9	16.7	自殺	45	31.7	12.3
60歳～69歳	悪性新生物	671	370.5	60.5	心疾患	140	77.3	12.6	脳血管疾患	102	56.3	9.2
70歳～79歳	悪性新生物	967	763.3	51.1	心疾患	303	239.2	16.0	脳血管疾患	206	162.6	10.9
80歳～	悪性新生物	2,187	1,719.0	26.1	心疾患	1,778	1,397.5	21.2	老衰	1,407	1,105.9	16.8

表1 平成28年山形県死因順位別にみた年齢階級、死亡数、死亡率、構成割合 厚生労働省人口動態統計

(6)職業別の自殺の状況

平成28年山形県警察本部自殺統計による自殺者数は230人で、前年に比べ14人の減少だった。

職業別の自殺者数をみると、「無職者」が117人(50.9%)で最も多く、次いで会社員等の被雇用者48人(20.9%)、自営業33人(14.3%)となっている。(図5)

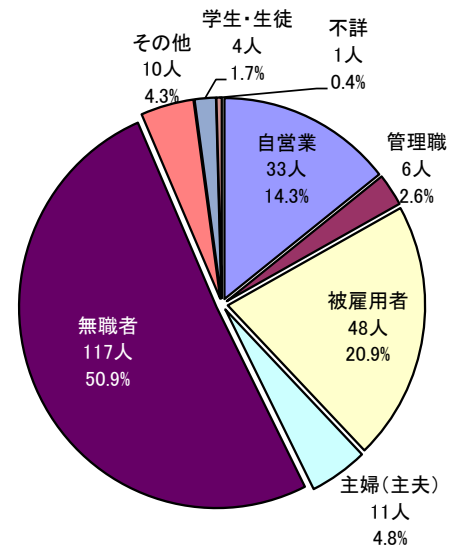


図5 平成28年職業別自殺者数及び割合 警察自殺統計

(7)原因・動機別の自殺の状況

自殺の多くは、多様かつ複合的な原因及び背景を有している。

原因・動機別の状況を見ると、「健康問題」が138人(48.3%)と最も多く、次いで、「経済・生活問題」57人(19.9%)、「家庭問題」26人(9.1%)、「勤務問題」19人(6.6%)の順となっている。(図6)上位3つの原因・動機で、7～8割を占める。前年と比べると、「家庭問題」で23人と減少数が大きかった。(図7)

年代別、男女別で見ると、男性は20～40歳代で「経済・生活問題」が、その他の年代では「健康問題」が第1位となっている。女性は、40歳代以降の年代で「健康問題」

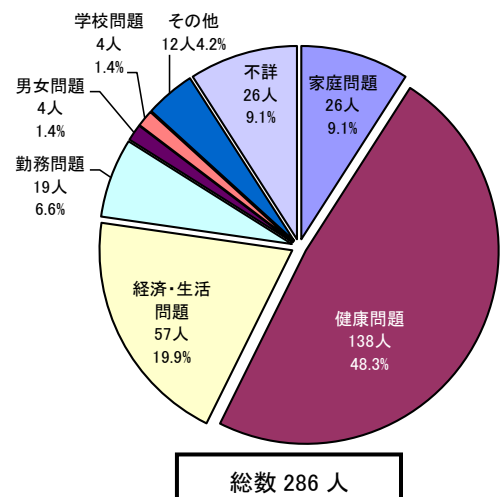


図6 平成28年原因・動機別自殺者数及び割合 警察自殺統計

が第1位となっている。(表2)

原因・動機の項目ごとの特徴を見ると、「健康問題」の内訳は、「精神障害」(87人、63.0%)、「身体の病気」(42人、30.4%)が多かった。さらに「精神障害」の内訳では「うつ病」(64人、73.6%)が最も多かった。

「経済・生活問題」の内訳は、「負債」(19人、33.3%)「生活苦」(16人、28.1%)、「失業・就業失敗」(11人、19.3%)だった。

「家庭問題」の内訳は、「家族間の不和」(19人、73.1%)、次いで「家族の死亡」(3人、11.5%)、であった。

「勤務問題」の内訳は、「仕事疲れ」(8人、42.1%)、「職場の人間関係」(5人、26.3%)だった。

(図8)

*平成19年(2007)自殺統計から、遺書等の自殺を裏付ける資料により、明らかに推定できる原因・動機を自殺者1人につき最大3つまで計上可能としたため、原因・動機別の和と、原因・動機特定者数は一致しない。

総数		20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80才~
動機 原因・ 件数	1	健康	経済	健康	健康	健康	健康	健康
	2	経済・勤務	健康	経済	経済	家庭・経済・不詳	経済	不詳
	3	—	勤務	その他	家庭	—	その他	家庭

男性		20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80才~
動機 原因・ 件数	1	経済・勤務	経済	経済	健康	健康	健康	健康
	2	—	健康	健康	経済	家庭	経済	不詳
	3	健康・不詳	勤務	その他	家庭	不詳	その他	家庭・経済

女性		20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~69歳	70~79歳	80才~
動機 原因・ 件数	1	学校	経済	健康	健康	健康	健康	健康
	2	健康	健康	経済・不詳	家庭	経済	その他	家庭・その他
	3	家庭・男女・その他	家庭	—	経済・勤務	不詳	—	—

表2 平成28年齢階級別、男女別における原因・動機の順位 警察自殺統計

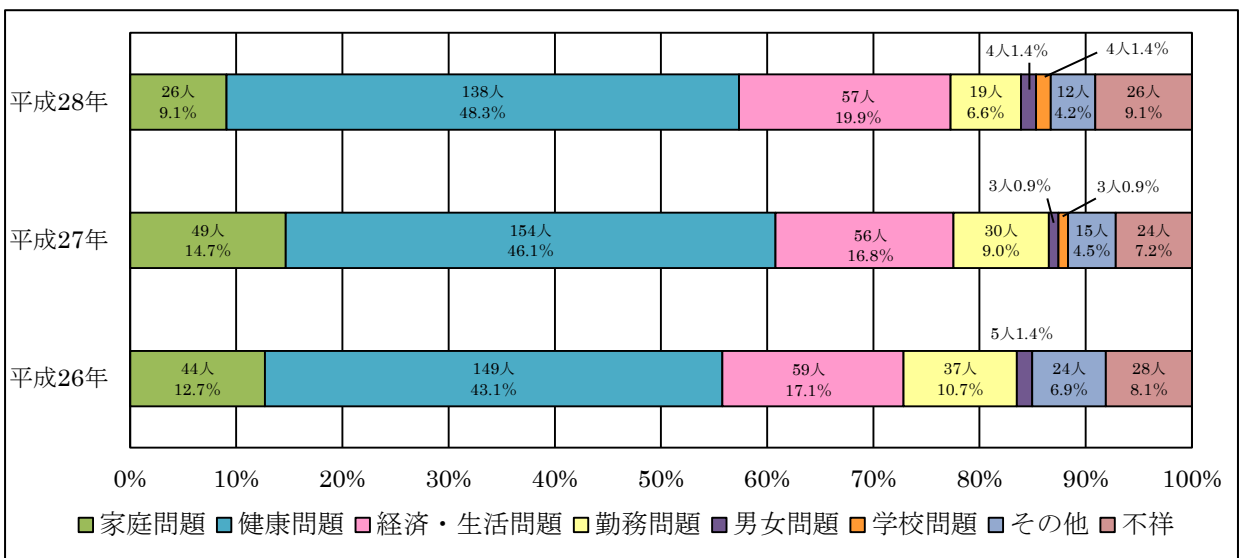


図7 平成26年～28年原因・動機別の割合(総数) 警察自殺統計

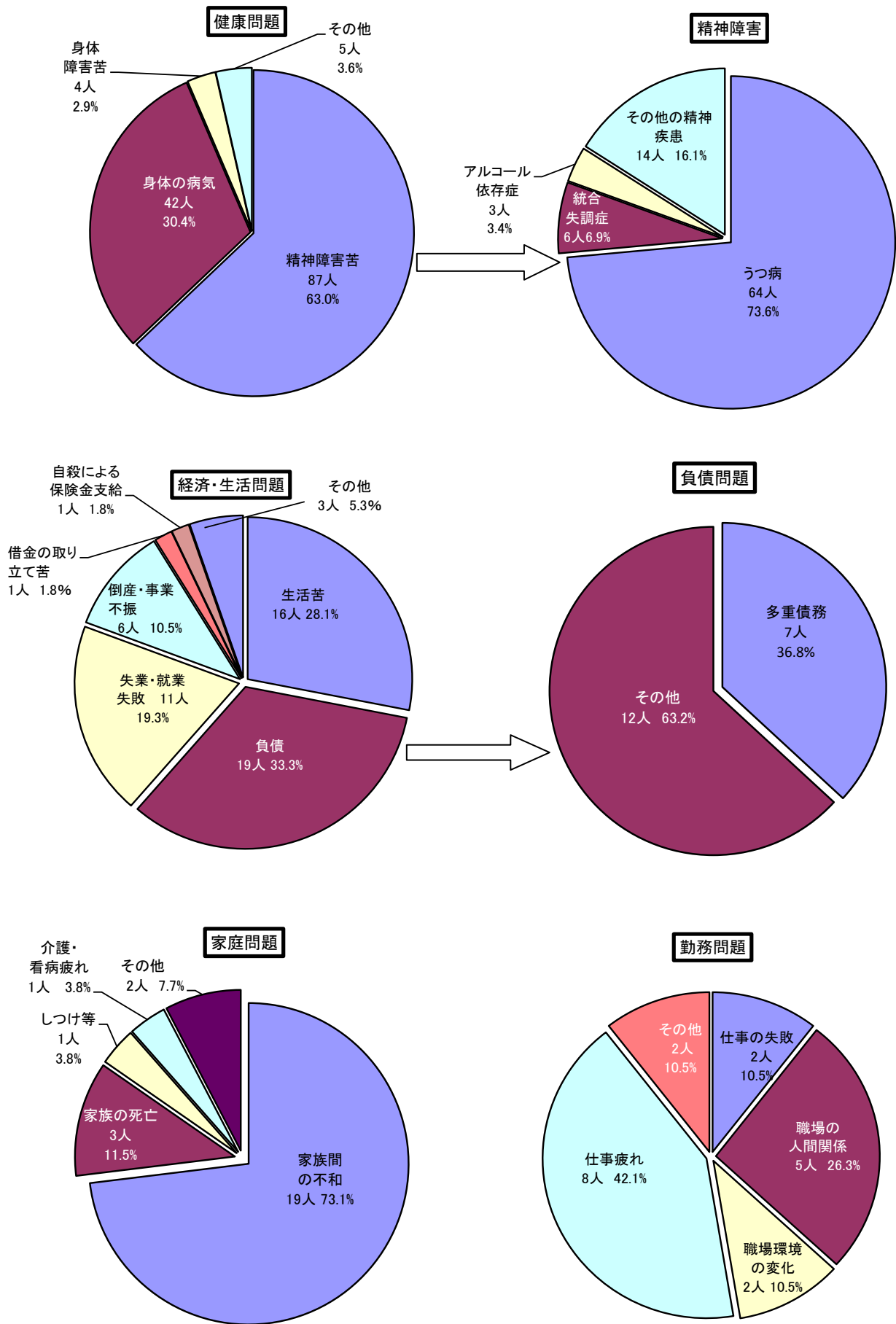


図 8 平成 28 年原因・動機別詳細割合 警察自殺統計

※原因・動機は複数計上（自殺者総数 230 人、原因・動機特定者 286 人）

(8) 場所別の自殺の状況

場所別をみると、「自宅」が164人(71.3%)と最も多く、次いで「乗り物」が17人(7.4%)、「勤務先」「山」7人(3.0%)となっている。自宅の割合が増え、7割を占めている。(図9)

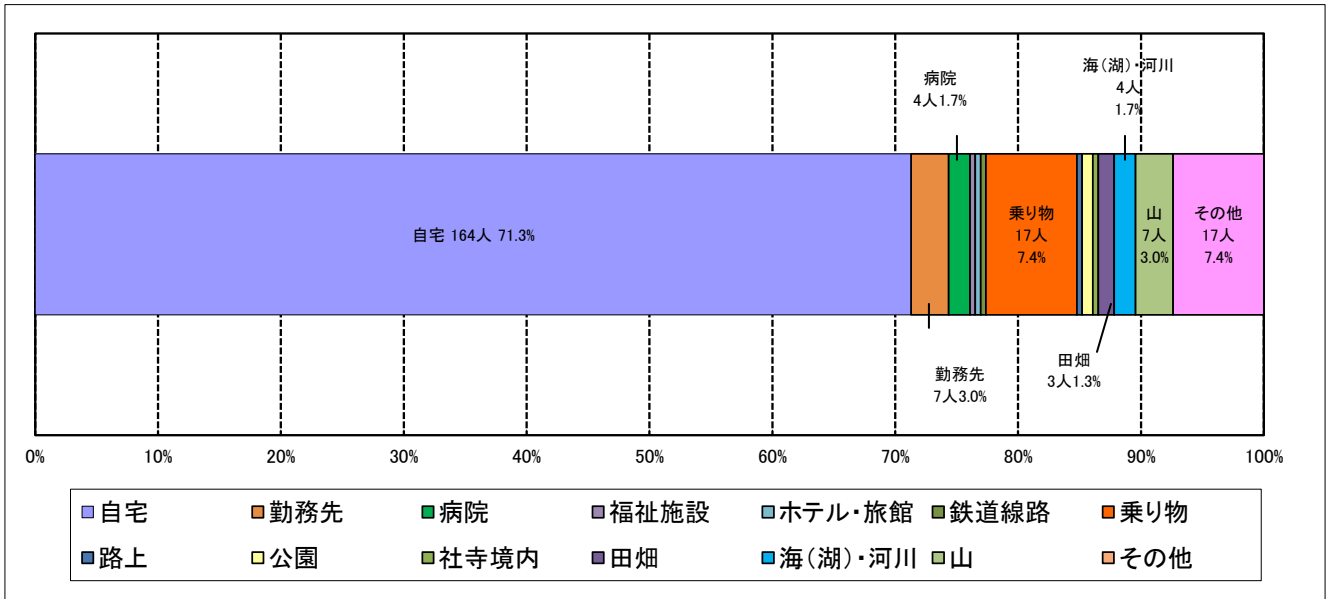


図9 平成28年 場所別自殺状況の割合 警察自殺統計

(9) 月別の自殺の状況

月別でみると、全国では、例年3月～5月の春に多くなる傾向がある。山形県では、全国との共通傾向は見えにくく、ここ2年は、5～7月が多かった。(図10)

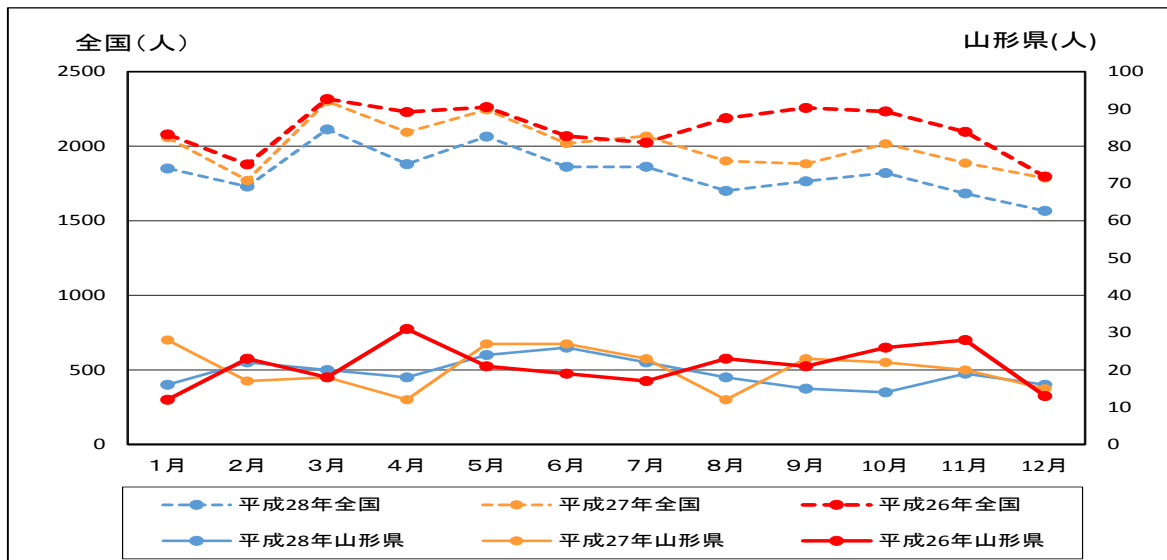


図10 平成26～28年死亡月別自殺者数(全国・山形県) 警察自殺統計

(10) 自殺未遂の状況

自殺者全体のうち、自殺未遂歴「あり」の割合は、18.3%である。男女別にみると、男性19.1%、女性16.4%だった。前年は、ほとんどの年代において、男性より女性の方が未遂歴「あり」の割合が高かったが、平成28年は年齢階級每ばらつきがみられた。(図11)

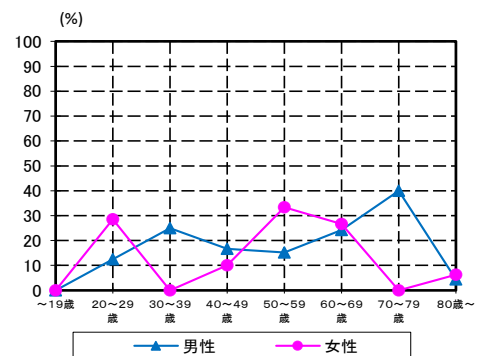


図11 平成28年自殺死亡者のうち自殺未遂歴「あり」の割合 警察自殺統計

(11) 同居の割合

同居者の有無をみると、男女とも同居人「有」の割合が高い。全国・山形県とも、男性に比べ女性の同居率が高い。(図 12)

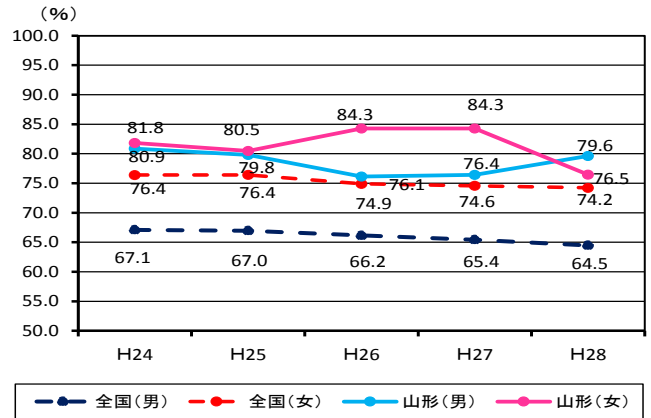


図 12 平成 24～28 年自殺者の同居の割合
厚生労働省 地域における自殺の基礎資料(住居地)

【留意事項】

- 1) 人口動態統計の数値は、平成 28 年確定値を使用。
- 2) 警察自殺統計は、発見地を使用。
- 3) 率算出のための分母に用いた人口(単位:人)

①日本人人口

	山形県		全国	
	平成 28 年	1,107,000	男 534,000 女 573,000	125,020,000

「平成 28 年 10 月 1 日現在人口推計(総務省統計局)」

②山形県の年齢階級別人口は、日本人及び外国人を対象に集計している「平成 28 年山形県の人口と世帯数(山形県統計企画課)」の第 15 表「市町村、年齢(各歳)、男女別人口」を使用(年齢不詳を除く)。

【参考】

～人口動態統計(厚生労働省)と自殺統計(警察庁)の相違点～

名称	説明	
人口動態統計 (厚生労働省)	対象	日本における日本人
	計上時点	住所地をもとに死亡時点 住所地で計上
	計上方法	自殺、他殺、事故死のいずれか不明の時は自殺以外で処理しており、後日死亡診断書等作成者から自殺の訂正報告がない場合は、自殺に計上しない。
自殺の概要 (警察庁)	対象	日本における外国人を含む
	計上時点	死体発見時点(認知時点) 住居地(住所地ではない)・発見地で計上
	計上方法	死体発見時に、自殺、他殺、事故死のいずれか不明の時は、その後の捜査により自殺と判明した時点で計上。